

<研究報告>

高等教育機関に所属する学生の自尊感情とボディ・イメージの関連

志渡 晃一¹⁾、澤岡 茉莉乃²⁾、米田 龍大³⁾、米田 政葉³⁾

抄録

目的：自尊感情の向上という視点から学生に対する保健指導の手がかりを得ることを目的として、男女別に自尊感情とボディ・イメージとの関連を検討した。

方法：2019年7月中に北海道内の大学・高等教育機関に所属する学生417名（有効回答347名）を対象とした。1）性別・年齢・身長・体重、2）自尊感情尺度、3）体型自己評価、体型満足度、容姿満足度に焦点を当てて検討した。

結果：女性の自尊感情が高い群は自尊感情の低い群と比較し、自身の体型および容姿に満足している者が多かった。一方、体型の自己評価、BMIとの関連は認められなかった。男性では、自尊感情と体型自己評価、体型満足度、容姿満足度、BMIとの間に関連は認められなかった。

結論：女子学生の自尊感情の促進には、自身のボディ・イメージに対する客観的な評価よりも主観的な満足度の向上が関連する可能性が示された。

キーワード：大学生、自尊感情、ボディ・イメージ、ローゼンバーグ自尊感情尺度、横断研究

I. 緒言

自尊感情 (Self-esteem) に関する定義は多岐にわたるが、ジェームズ (James, W.、1890) 以来、自己に対する満足および不満足といった「自己評価の感情」として捉えられている。自尊感情研究に初めて質問紙法を取り入れたのはRosenberg, M (1965) だといわれている (遠藤・井上・蘭, 1992)。Rosenberg, Mは評価尺度作成にあたり自尊感情を「自分自身を「これでよい (good enough)」と考える程度の自己に対する肯定的または否定的な態度」と定義した (桜井, 2000)。ローゼンバーグが作成した自尊感情評価尺度(Rosenberg Self Esteem Scale)は世界各地で翻訳され使用されており (Schmitt&Allik, 2005)、邦訳版も桜井 (2000) やMimura&Griffiths (2007) によって作成されている。

これまでに自尊感情の関連要因として様々なものが示唆されている。前上里・大津・柳田 (1998) は1府6県の大学生を対象に自尊感情とライフスタイルの関連を検

討し、自尊感情が高い者は就寝時刻が規則正しく、きちんと朝食を食べているなど規則的な生活習慣であったと報告している。豊田・松本 (2004) は自尊感情の促進要因として、過去の学校生活で得意科目や充実感があり、家族、両親、過去や現在の学校の友人との関係が良好であることを示唆している。さらに小塩 (1998) は青年期における自己愛傾向や自尊感情が友人関係のあり方と密接に関連している可能性を指摘している。また、野間・牛尾・横瀬・他 (2013) は女子大学生の自尊感情が母親への肯定的感情と関連しており、自尊感情を高めることが抑うつ軽減に有効であることが示唆されている。

青年期における自尊感情との重要な関連要因として、過度な瘦身願望や不適切な自身のボディ・イメージとの関連が指摘されている。田崎・今田 (2005) は大学生男女ともに自尊感情と瘦身願望が負の相関関係にあることを報告している。馬場・菅原 (2000) は自尊感情が低く日常的な空虚感が高い個人にBMIが高いという因子が加わった時、日常の不全感を体型に起因させ、瘦身願望に至るという経路を示している。さらにO' Dea, J.A. & Abraham, S. (2000) は自尊感情を促進することが身体満足度を高め、摂食障害の予防につながる可能性を示唆している。しかし、北海道内の高等教育機関に所属する学

- 1) 大学院看護福祉学研究科
- 2) 看護福祉学部臨床福祉学科学士課程
- 3) 大学院看護福祉学研究科博士後期課程

生を対象として、自尊感情と主観的な体型評価および客観的な体型評価との関連を検討した研究は十分に行われていない。

そこで本研究では自尊感情の向上という視点から学生に対する保健指導の手がかりを得ることを目的として、以下の検討を行う。1) 北海道内の高等教育機関に所属する学生の自尊感情の得点分布を明らかにする。2) 自尊感情と主観的な体型評価、体型満足度等の関連を検討する。3) 自尊感情と客観的な体型評価の関連を検討する。

II. 方法

1. 期間・対象・実査方法

2019年7月中に北海道内の大学・高等教育機関に所属する学生417名を対象として、無記名自記式質問紙票を用いた集合調査を行った。

2. 調査項目

調査項目は1) 基本属性(学科、学年、性別、年齢、居住形態) 5項目、2) 生活習慣16項目、3) ボディ・イメージ9項目、4) 主観的幸福感等5項目、5) 学校生活等における満足度9項目、6) 過去の家経験10項目、7) 過去の家族関係4項目、8) 過去の母親との関係14項目、9) 過去の父親との関係13項目、10) 過去の学校生活11項目、11) 自尊感情尺度(Rosenberg Self Esteem Scale) 10項目、12) 米国国立精神保健研究所開発疫学的うつ病評価尺度(The Center for Epidemiology Studies Depression Scale) 20項目、13) 首尾一貫感覚(Sense of Coherence) 13項目、計139項目とした。

このうち、本研究では、1) 性別・年齢・身長・体重、2) 自尊感情尺度10項目、3) 体型自己評価、体型満足度、容姿満足度に焦点を当てて検討した。

3. 集計・分類・解析方法

回収した質問紙票をもとにデータセットを作成した(Microsoft Excel 2016を使用)。質問紙票の回収数は401名(96.2%)分であった。分析には性・年齢・身長・体重・自尊感情尺度の回答に欠損のある者を除いた347名(86.5%)分のデータを使用した。

自尊感情尺度はローゼンバーグが作成した自尊感情評価尺度の邦訳版であり、Mimura&Griffiths(2007)により逆翻訳の過程を経て作成された。国内外の自尊感情評価尺度として広く使用されており、内田・上埜(2010)により信頼性、妥当性が確認されている。4件法10項目で構成され、合計点は10~40点の範囲に分布する。合計点が高いほど、自尊感情が高いことを示す。カットオフ

値は10~22点を「低値群」、23~26点を「中値群」、27~40点を「高値群」として3群に分類した。

客観的な体型評価指標には体格指数(Body Mass Index; 以下BMI)を用いた。BMIは体重(Kg)÷身長(m)²で計算される。WHO基準では18.5~24.99を普通体型として、18.5未満であれば低体重、25.0以上であれば肥満としている。本研究ではWHO基準を参考に、18.5未満を「やせている群」、18.5~20.49を「少しやせている群」、20.5~23.49を「ちょうどいい群」、23.5~24.99を「少し太っている群」、25.0以上を「太っている群」と5群に分類し、分布をみた。解析時には、18.5未満を「やせ群」、18.5~24.99を「普通群」、25以上を「肥満群」として3群に分類し関連を検討した。

体型自己評価は5件法1項目で質問し、検定の際には少し太っている、太っていると回答した者を「太っている群」、ちょうどいい以下を「やせている・普通群」として2群に分類した。

体型満足度、容姿満足度についてはそれぞれ10件法1項目で質問した。分析にあたり、1~3点を「不満群」、4~6点を「普通群」、7点以上を「満足群」と操作的に定義し、3群に分類した。

解析にあたり、自尊感情の男女差についてはt検定、自尊感情と各要因との関連は χ^2 検定を用いて関連を検討した。

4. 倫理的配慮

調査の実施に当たり、対象者には1) 結果は統計的に処理し、公表に当たり個人が特定されることは無いこと、2) 調査によって得られたデータは研究外使用をしないこと、3) 調査への参加・不参加を問わず利益・不利益を被ることは無いことを紙面および口頭で説明し、調査票の回収をもって同意したものとみなした。なお本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究所倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号: 19N013012)

III. 結果

1. 基本属性

表1に自尊感情得点と基本属性(年齢、体型自己評価、体型満足度、容姿満足度、BMI)の分布状況を示した。対象者は男性102名(26.3%)、女性286名(73.7%)であった。

自尊感情得点の平均±標準偏差(以下±SD)について男女別にみると、男性は24.7±4.9、女性は22.9±4.4であり、女性と比較し男性で有意に自尊感情得点が高かった。

平均年齢±SDは男性20.0±1.5歳、女性19.1±1.2歳であった。

体型自己評価について男性の平均±SDは2.6±1.2であった。女性の平均±SDは2.1±0.9であった。

体型満足度をみると男性の平均は4.5±2.3点であり、女性では平均が3.8±2.1点であった。

容姿満足度について男性の平均±SDは4.3±2.2点であり、女性の平均±SDは3.4±1.9点であった。

BMIの分布をみると男性の平均±SDは23.1±4.0であった。女性の平均±SDは20.6±2.2であった。

2. 自尊感情と体型自己評価との関連

表2、表3に男女別の自尊感情得点と体型自己評価との関連を示した。男女ともに自尊感情得点と体型自己評価に有意な関連がみられなかった。

3. 自尊感情と体型満足度との関連

表4、表5に男女別の自尊感情得点と体型満足度との関連を示した。女性では体型不満足群は体型普通群、体型満足群と比較し、自尊感情低値群の該当率が高かった。さらに体型普通群と体型満足群は体型不満足群と比較し自尊感情高値群の該当率が高かった。男性では自尊感情得点と体型満足度に有意な関連がみられなかった。

4. 自尊感情と容姿満足度との関連

表6、表7に男女別の自尊感情得点と容姿満足度との関連を示した。女性の容姿不満足群は容姿普通群、容姿満足群と比較し、自尊感情低値群の該当率が高かった。容姿普通群および容姿満足群は容姿不満足群と比較し、自尊感情高値群の該当率が高かった。男性では自尊感情と容姿満足度に有意な関連が認められなかった。

5. 自尊感情とBMIとの関連

表8、表9に男女別の自尊感情得点とBMIとの関連を示した。男女ともに自尊感情とBMIの間に有意な関連は認められなかった。

IV. 考察

本研究は自尊感情の向上という視点から、学生に対する保健指導の手がかりを得ることを目的として、自尊感情と青年期における重大な関連要因であるボディ・イメージとの関連を検討した。

自尊感情得点について男女別にみると、女性(22.9±4.4点)よりも男性(24.7±4.9点)の自尊感情得点が高かった。これは岡田・小塩・茂垣・他(2015)を支持する結果であった。さらにSchmitt & Allik(2005)が日本を含

む世界53か国・地域で16,000人以上を対象に調査を行った結果、日本人の自尊感情得点が最も低い値(25.5点)を示しており、本研究の値はこれとほぼ同水準であった。

自尊感情と体型自己評価の関連について男女ともに有意な関連は示されなかった。しかし全体でみると、自尊感情の高い者は太っていると回答する率が低かった(付表1)。多川・西川・荒島・他(2000)では体型を過大評価する者は自尊感情が低いという結果を示している。全体で得られた結果はこれと類似する結果であり、男女別に見た際に有意差がみられなかったことは、「やせている」に該当する者が少なく検出率が低かった可能性がある。

体型満足度との関連において、女性の自尊感情が高い者は体型満足度が高い傾向がみられた。これは下里・安達(2017)と近似する結果であった。一方で、男性は自尊感情と体型満足度に有意な関連が認められなかった。先行研究では男性の自尊感情と体型満足度に有意な関連があるという説(田崎・今田, 2004)と関連がないという説(浦上・小島・沢宮・他, 2009)があり、本研究では浦上・小島・沢宮・他(2009)を支持する知見が得られた。

容姿満足度について、女性で自尊感情の高い者は容姿満足度が高かった。しかし、男性は今回、自尊感情と容姿満足度に有意な関連が認められなかった。豊田・松本(2004)は対象者を男女に分けず解析を行い、自尊感情の高い者は自分の容姿に大体満足しているという結果を示している。女性についてはこれと類似の結果であった。男性の自尊感情と容姿満足度の関連はこれまで十分に検討されておらず、本研究により新たに得られた知見である。また、女性で関連の見られた容姿は包括的な概念であり、今後容姿の構成要素について詳細に検討し自尊感情との関連を検討する必要がある。

BMIについて分布を見ると、全体の平均±SDは21.4±3.1、男性では23.1±4.0、女性では20.6±2.2であった。これは國本・菊永・岡崎・他(2017)と類似の値であった。自尊感情とBMIの関連は男女ともに有意な関連が認められなかった。これは田崎(2007)を支持する結果であった。

本研究の有効性として身長・体重など、より個人的な情報を質問紙中に含んでいるにも関わらず、回収率・有効回答率が高いという点がある。女性の自尊感情の向上には、体型満足度と容姿満足度を高めることが有効である可能性が示されている。男性では自尊感情の向上にボディ・イメージ全般が関連しない可能性が考えられる。本研究では主観的な体型評価と客観的な評価指標であるBMIに乖離がみられる。これについて今後さらに主観的な評価と客観的な評価との関連について検討していく予定で

表 1. 自尊感情と基本属性の分布

		N	平均値±SD	中央値	最頻値	最小値	最大値	p
自尊感情	男性	102	24.7±4.9	25.0	25.0	10	40	<0.01
	女性	245	22.9±4.4	23.0	25.0	10	33	
年齢	男性	102	20.0±1.5	20.0	20.0	18	28	-
	女性	245	19.1±1.2	19.0	19.0	18	26	
体型自己評価	男性	102	2.6±1.2	3.0	3.0	1	5	-
	女性	245	2.1±0.9	2.0	2.0	1	5	
体型満足度	男性	102	4.5±2.3	4.0	5.0	1	10	-
	女性	244	3.8±2.1	3.5	4.0	1	10	
容姿満足度	男性	102	4.3±2.2	5.0	5.0	1	10	-
	女性	244	3.4±1.9	3.0	3.0	1	9	
BMI	男性	102	23.1±4.0	22.1	20.8	16.7	36.4	-
	女性	245	20.6±2.2	20.5	20.3	16.2	27.3	

p:t検定

表 2. 自尊感情得点と体型自己評価との関連 (女性)

		体型自己評価					合計	
		やせている・普通群			太っている群			
		やせている	少しやせている	ちょうどいい	少し太っている	太っている		
自尊感情得点	低値群	n	2	1	21	53	34	111
		(行%)	(1.8)	(0.9)	(18.9)	(47.7)	(30.6)	(100.0)
		(列%)	(50.0)	(9.1)	(42.9)	(44.2)	(55.7)	(45.3)
	中値群	n	1	8	17	40	14	80
		(行%)	(1.3)	(10.0)	(21.3)	(50.0)	(17.5)	(100.0)
		(列%)	(25.0)	(72.7)	(34.7)	(33.3)	(23.0)	(32.7)
	高値群	n	1	2	11	27	13	54
		(行%)	(1.9)	(3.7)	(20.4)	(50.0)	(24.1)	(100.0)
		(列%)	(25.0)	(18.2)	(22.4)	(22.5)	(21.3)	(22.0)
	合計	n	4	11	49	120	61	245
		(行%)	(1.6)	(4.5)	(20.0)	(49.0)	(24.9)	(100.0)
		(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

表 3. 自尊感情得点と体型自己評価との関連 (男性)

		体型自己評価					合計	
		やせている・普通群			太っている群			
		やせている	少しやせている	ちょうどいい	少し太っている	太っている		
自尊感情得点	低値群	n	3	4	7	9	9	32
		(行%)	(9.4)	(12.5)	(21.9)	(28.1)	(28.1)	(100.0)
		(列%)	(33.3)	(28.6)	(22.6)	(39.1)	(36.0)	(31.4)
	中値群	n	2	8	9	7	10	36
		(行%)	(5.6)	(22.2)	(25.0)	(19.4)	(27.8)	(100.0)
		(列%)	(22.2)	(57.1)	(29.0)	(30.4)	(40.0)	(35.3)
	高値群	n	4	2	15	7	6	34
		(行%)	(11.8)	(5.9)	(44.1)	(20.6)	(17.6)	(100.0)
		(列%)	(44.4)	(14.3)	(48.4)	(30.4)	(24.0)	(33.3)
	合計	n	9	14	31	23	25	102
		(行%)	(8.8)	(13.7)	(30.4)	(22.5)	(24.5)	(100.0)
		(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

表 4. 自尊感情得点と体型満足度との関連（女性）

		体型満足度									合計	
		不満群			普通群			満足群				
		1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	10点		
自尊感情得点	低値群 ^{b,c}	n	18	25	30	20	6	5	4	2	0	110
		(行%)	(16.4)	(22.7)	(27.3)	(18.2)	(5.5)	(4.5)	(3.6)	(1.8)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(52.9)	(65.8)	(60.0)	(38.5)	(25.0)	(41.7)	(23.5)	(14.3)	(0.0)	(45.1)
	中値群	n	10	8	14	20	10	3	7	7	0	80
		(行%)	(12.5)	(10.0)	(17.5)	(25.0)	(12.5)	(3.8)	(8.8)	(8.8)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(29.4)	(21.1)	(28.0)	(38.5)	(41.7)	(25.0)	(41.2)	(50.0)	(0.0)	(32.8)
	高値群 ^a	n	6	5	6	12	8	4	6	5	1	54
		(行%)	(11.1)	(9.3)	(11.1)	(22.2)	(14.8)	(7.4)	(11.1)	(9.3)	(1.9)	(100.0)
		(列%)	(17.6)	(13.2)	(12.0)	(23.1)	(33.3)	(33.3)	(35.3)	(35.7)	(100.0)	(22.1)
合計	n	34	38	50	52	24	12	17	14	1	244	
	(行%)	(13.9)	(15.6)	(20.5)	(21.3)	(9.8)	(4.9)	(7.0)	(5.7)	(0.4)	(100.0)	
	(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

体型満足度は1～3点を不満群，4～6点を普通群，7～10点を満足群とした

a: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs 不満群；体型普通群・体型満足群は体型不満群と比較し自尊感情高値群の該当率が有意に高い。

b: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs 普通群；体型不満群は体型普通群と比較し自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

c: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs 満足群；体型不満群は体型満足群と比較し自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

表 5. 自尊感情得点と体型満足度との関連（男性）

		体型満足度									合計	
		不満群			普通群			満足群				
		1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	10点		
自尊感情得点	低値群	n	5	3	4	6	7	3	1	3	0	32
		(行%)	(15.6)	(9.4)	(12.5)	(18.8)	(21.9)	(9.4)	(3.1)	(9.4)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(45.5)	(30.0)	(22.2)	(40.0)	(35.0)	(42.9)	(14.3)	(30.0)	(0.0)	(31.4)
	中値群	n	3	3	8	6	8	2	4	1	0	36
		(行%)	(8.3)	(8.3)	(22.2)	(16.7)	(22.2)	(5.6)	(11.1)	(2.8)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(27.3)	(30.0)	(44.4)	(40.0)	(40.0)	(28.6)	(57.1)	(10.0)	(0.0)	(35.3)
	高値群	n	3	4	6	3	5	2	2	6	3	34
		(行%)	(8.8)	(11.8)	(17.6)	(8.8)	(14.7)	(5.9)	(5.9)	(17.6)	(8.8)	(100.0)
		(列%)	(27.3)	(40.0)	(33.3)	(20.0)	(25.0)	(28.6)	(28.6)	(60.0)	(100.0)	(33.3)
合計	n	11	10	18	15	20	7	7	10	3	102	
	(行%)	(10.8)	(9.8)	(17.6)	(14.7)	(19.6)	(6.9)	(6.9)	(9.8)	(2.9)	(100.0)	
	(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

体型満足度は1～3点を不満群，4～6点を普通群，7～10点を満足群とした

表 6. 自尊感情得点と容姿満足度との関連（女性）

		容姿満足度									合計	
		不満群			普通群			満足群				
		1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	10点		
自尊感情得点	低値群 ^{b,c}	n	27	30	23	16	9	3	2	0	0	110
		(行%)	(24.5)	(27.3)	(20.9)	(14.5)	(8.2)	(2.7)	(1.8)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(60.0)	(75.0)	(46.0)	(38.1)	(24.3)	(27.3)	(15.4)	(0.0)	(0.0)	(45.1)
	中値群	n	14	8	18	15	13	4	6	2	0	80
		(行%)	(17.5)	(10.0)	(22.5)	(18.8)	(16.3)	(5.0)	(7.5)	(2.5)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(31.1)	(20.0)	(36.0)	(35.7)	(35.1)	(36.4)	(46.2)	(40.0)	(0.0)	(32.8)
	高値群 ^a	n	4	2	9	11	15	4	5	3	0	54
		(行%)	(7.4)	(3.7)	(16.7)	(20.4)	(27.8)	(7.4)	(9.3)	(5.6)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(8.9)	(5.0)	(18.0)	(26.2)	(40.5)	(36.4)	(38.5)	(60.0)	(0.0)	(22.1)
合計	n	45	40	50	42	37	11	13	5	0	244	
	(行%)	(18.4)	(16.4)	(20.5)	(17.2)	(15.2)	(4.5)	(5.3)	(2.0)	(0.0)	(100.0)	
	(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

容姿満足度は1～3点を不満足群，4～6点を普通群，7～10点を満足群とした

a: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs不満足群；体型普通群・体型満足群は体型不満足群と比較し自尊感情高値群の該当率が有意に高い。

b: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs普通群；体型不満足群は体型普通群と比較し自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

c: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs満足群；体型不満足群は体型満足群と比較し自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

表 7. 自尊感情得点と容姿満足度との関連（男性）

		容姿満足度									合計	
		不満群			普通群			満足群				
		1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	10点		
自尊感情得点	低値群	n	7	3	4	1	13	1	2	1	0	32
		(行%)	(21.9)	(9.4)	(12.5)	(3.1)	(40.6)	(3.1)	(6.3)	(3.1)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(50.0)	(27.3)	(33.3)	(9.1)	(40.6)	(16.7)	(25.0)	(25.0)	(0.0)	(31.4)
	中値群	n	3	5	4	6	11	3	3	0	0	36
		(行%)	(8.3)	(13.9)	(11.1)	(16.7)	(30.6)	(8.3)	(8.3)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(21.4)	(45.5)	(33.3)	(54.5)	(34.4)	(50.0)	(37.5)	(0.0)	(0.0)	(35.3)
	高値群	n	4	3	4	4	8	2	3	3	2	34
		(行%)	(11.8)	(8.8)	(11.8)	(11.8)	(23.5)	(5.9)	(8.8)	(8.8)	(5.9)	(100.0)
		(列%)	(28.6)	(27.3)	(33.3)	(36.4)	(25.0)	(33.3)	(37.5)	(75.0)	(100.0)	(33.3)
合計	n	14	11	12	11	32	6	8	4	2	102	
	(行%)	(13.7)	(10.8)	(11.8)	(10.8)	(31.4)	(5.9)	(7.8)	(3.9)	(2.0)	(100.0)	
	(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

容姿満足度は1～3点を不満足群，4～6点を普通群，7～10点を満足群とした

表 8. 自尊感情得点とBMIの関連 (女性)

		BMI					合計	
		やせ群	普通群			肥満群		
		やせている群	少しやせている群	ちょうどいい群	少し太っている群	太っている群		
自尊感情得点	低値群	n	23	46	31	4	7	111
		(行%)	(20.7)	(41.4)	(27.9)	(3.6)	(6.3)	(100.0)
		(列%)	(42.6)	(50.0)	(38.8)	(50.0)	(63.6)	(45.3)
	中値群	n	22	24	29	2	3	80
		(行%)	(27.5)	(30.0)	(36.3)	(2.5)	(3.8)	(100.0)
		(列%)	(40.7)	(26.1)	(36.3)	(25.0)	(27.3)	(32.7)
	高値群	n	9	22	20	2	1	54
		(行%)	(16.7)	(40.7)	(37.0)	(3.7)	(1.9)	(100.0)
		(列%)	(16.7)	(23.9)	(25.0)	(25.0)	(9.1)	(22.0)
	合計	n	54	92	80	8	11	245
		(行%)	(22.0)	(37.6)	(32.7)	(3.3)	(4.5)	(100.0)
		(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

自尊感情は10～22点を低値群, 23～26点を中値群, 27～40点を高値群とした
 BMIは0～18.49をやせている群, 18.5～20.49を少しやせている群,
 20.5～23.49をちょうどいい群, 23.5～24.99を少し太っている群, 25.0～36.99を太っている群とした

表 9. 自尊感情得点とBMIの関連 (男性)

		BMI					合計	
		やせ群	普通群			肥満群		
		やせている群	少しやせている群	ちょうどいい群	少し太っている群	太っている群		
自尊感情得点	低値群	n	4	9	9	1	9	32
		(行%)	(12.5)	(28.1)	(28.1)	(3.1)	(28.1)	(100.0)
		(列%)	(36.4)	(34.6)	(29.0)	(11.1)	(36.0)	(31.4)
	中値群	n	4	9	10	4	9	36
		(行%)	(11.1)	(25.0)	(27.8)	(11.1)	(25.0)	(100.0)
		(列%)	(36.4)	(34.6)	(32.3)	(44.4)	(36.0)	(35.3)
	高値群	n	3	8	12	4	7	34
		(行%)	(8.8)	(23.5)	(35.3)	(11.8)	(20.6)	(100.0)
		(列%)	(27.3)	(30.8)	(38.7)	(44.4)	(28.0)	(33.3)
	合計	n	11	26	31	9	25	102
		(行%)	(10.8)	(25.5)	(30.4)	(8.8)	(24.5)	(100.0)
		(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

自尊感情は10～22点を低値群, 23～26点を中値群, 27～40点を高値群とした
 BMIは0～18.49をやせている群, 18.5～20.49を少しやせている群,
 20.5～23.49をちょうどいい群, 23.5～24.99を少し太っている群, 25.0～36.99を太っている群とした

ある。

限界としては横断研究であるため因果関係の推定が困難であることが挙げられる。本研究では自尊感情の向上という視点から検討を行ったが、先行研究では自尊感情を高めることによって、適正な体型認識を獲得できる可能性が示唆されているため、そうした方向からの検討も行っていく必要がある。

引用文献

馬場安希、菅原健介 (2000) 「女子青年における瘦身願望についての研究」『教育心理学研究』48、267-274.

遠藤辰雄、井上祥治、蘭千壽 編 (1993) 「セルフ、エスティームの心理学 自己価値の探究」p 9、14. 株式会社ナカニシヤ出版.

國本あゆみ、菊永茂司、岡崎勘造、天野勝弘、佐川和則、新宅幸憲、積山敬経、井上 裕美子、成山公一、山崎先也、岡本啓、石井信子、田子孝仁、土岡大介、福田隆、林恭輔、小倉俊郎、東條光彦、三村由香里、松枝睦美、上村弘子、津島愛子、加賀勝、酒向治子、土井真由、鈴木久雄 (2017) 「大学生男女のBMIと体型不満-シルエットを用いたボディイメージの相違-」『日本健康教育学雑誌』25 (2)、74-84.

前上里直、大津一義、柳田美里 (1998) 「大学生のライフスタイルとセルフエスティームとのかかわり」『順天堂大学スポーツ健康科学研究』2、54-64.

Mimura, C. & Griffiths, P. (2007) 「A Japanese version of the Rosenberg Self-Esteem Scale: translation and equivalence assessment.」『Journal of Psychosomatic Research』62 (5)、589-594.

野間あずさ、牛尾恵、横瀬洋輔、他 (2013) 「女子大学生における母娘関係が娘の自尊感情と抑うつに与える影響」『徳島大学人間科学研究』21、35-47.

O' Dea, J. A. & Abraham, S. (2000) 「Improving the body image, eating attitudes, and behaviors of young male and female adolescents: A new educational approach that focuses on self-esteem」『International Journal of Eating

Disorders』28、43-57.

岡田涼、小塩真司、茂垣まどか、脇田貴文、並川努 (2015) 「日本人における自尊感情の性差に関するメタ分析」『パーソナリティ研究』24、49-60.

小塩真司 (1998) 「青年の自己愛傾向と自尊感情、友人関係のあり方との関連」『教育心理学研究』46 (3)、280-290.

桜井茂男 (2000) 「ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討」『筑波大学発達臨床心理学研究』12、65-71.

Schmitt, D. P. & Allik, J. (2005) 「Simultaneous Administration of the Rosenberg Self-Esteem Scale in 53 Nations: Exploring the Universal and Culture-Specific Features of Global Self-Esteem」『Journal of Personality and Social Psychology』89 (4)、623-642.

下里和哉、安達内美子 (2017) 「若年女性におけるやせ願望及びダイエット行動とライフスキルの関連」『名古屋栄養科学雑誌』3、39-52.

田崎慎治、今田純雄 (2004) 「大学生男女における自尊感情と瘦身願望の関係」『広島修大論集人文編』45、17-37.

田崎慎治 (2007) 「大学生における瘦身願望と主観的健康観及び、食行動との関連」『健康心理学研究』20、56-63.

多川真澄、西川武志、荒島真一郎、岡部多香子 (2000) 「体型認識とセルフエスティームとのかかわり学校」『保健研究』42、413-422.

豊田加奈子、松本恒之 (2004) 「大学生の自尊心と関連する諸要因に関する研究」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』1、38-54.

内田知宏、上埜高志 (2010) 「Rosenberg自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討-Mimura&Griffiths訳の日本語版を用いて-」

浦上涼子、小島弥生、沢宮容子、坂野雄二 (2009) 「男子青年における瘦身願望についての研究」『教育心理学研究』57 (3)、263-273.

付表1. 自尊感情得点と体型評価との関連 (全体)

		体型評価					合計	
		やせている・普通群			太っている群			
		やせている	少しやせている	ちょうどいい	少し太っている	太っている		
自尊感情得点	低値群 ^a	n	5	5	28	62	43	143
		(行%)	(3.5)	(3.5)	(19.6)	(43.4)	(30.1)	(100.0)
		(列%)	(38.5)	(20.0)	(35.0)	(43.4)	(50.0)	(41.2)
	中値群	n	3	16	26	47	24	116
		(行%)	(2.6)	(13.8)	(22.4)	(40.5)	(20.7)	(100.0)
		(列%)	(23.1)	(64.0)	(32.5)	(32.9)	(27.9)	(33.4)
	高値群	n	5	4	26	34	19	88
		(行%)	(5.7)	(4.5)	(29.5)	(38.6)	(21.6)	(100.0)
		(列%)	(38.5)	(16.0)	(32.5)	(23.8)	(22.1)	(25.4)
合計	n	13	25	80	143	86	347	
	(行%)	(3.7)	(7.2)	(23.1)	(41.2)	(24.8)	(100.0)	
	(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

a: $p < 0.05$ 、 χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs やせている・普通群；太っている群はやせている・普通群よりも自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

付表2. 自尊感情得点と体型満足度との関連 (全体)

		体型満足度									合計	
		不満足群			普通群			満足群				
		1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	10点		
自尊感情得点	低値群 ^{b,c}	n	23	28	34	26	13	8	5	5	0	142
		(行%)	(16.2)	(19.7)	(23.9)	(18.3)	(9.2)	(5.6)	(3.5)	(3.5)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(51.1)	(58.3)	(50.0)	(38.8)	(29.5)	(42.1)	(20.8)	(20.8)	(0.0)	(41.0)
	中値群	n	13	11	22	26	18	5	11	8	0	116
		(行%)	(11.2)	(9.5)	(19.0)	(22.4)	(15.5)	(4.3)	(9.5)	(6.9)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(28.9)	(22.9)	(32.4)	(38.8)	(40.9)	(26.3)	(45.8)	(33.3)	(0.0)	(33.5)
	高値群 ^a	n	9	9	12	15	13	6	8	11	4	88
		(行%)	(10.2)	(10.2)	(13.6)	(17.0)	(14.8)	(6.8)	(9.1)	(12.5)	(4.5)	(100.0)
		(列%)	(20.0)	(18.8)	(17.6)	(22.4)	(29.5)	(31.6)	(33.3)	(45.8)	(100.0)	(25.4)
合計	n	45	48	68	67	44	19	24	24	4	346	
	(行%)	(13.0)	(13.9)	(19.7)	(19.4)	(12.7)	(5.5)	(6.9)	(6.9)	(1.2)	(100.0)	
	(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	

自尊感情は10～22点を低値群，23～26点を中値群，27～40点を高値群とした

体型満足度は1～3点を不満足群，4～6点を普通群，7～10点を満足群とした

a: $p < 0.05$ 、 χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs 不満足群；体型満足群は体型不満足群と比較し、自尊感情高値群の該当率が有意に高い。

b: $p < 0.05$ 、 χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs 普通群；体型不満足群は体型普通群と比較し、自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

c: $p < 0.05$ 、 χ^2 検定 (bonferroniの調整にて p 値を調整) vs 満足群；体型不満足群・体型普通群は体型満足群と比較し、自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

付表3. 自尊感情得点と容姿満足度との関連 (全体)

		容姿満足度									合計	
		不満群			普通群			満足群				
		1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	10点		
自尊感情得点	低値群 ^{b,c}	n	34	33	27	17	22	4	4	1	0	142
		(行%)	(23.9)	(23.2)	(19.0)	(12.0)	(15.5)	(2.8)	(2.8)	(0.7)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(57.6)	(64.7)	(43.5)	(32.1)	(31.9)	(23.5)	(19.0)	(11.1)	(0.0)	(41.0)
	中値群	n	17	13	22	21	24	7	9	2	0	116
		(行%)	(14.7)	(11.2)	(19.0)	(18.1)	(20.7)	(6.0)	(7.8)	(1.7)	(0.0)	(100.0)
		(列%)	(28.8)	(25.5)	(35.5)	(39.6)	(34.8)	(41.2)	(42.9)	(22.2)	(0.0)	(33.5)
	高値群 ^a	n	8	5	13	15	23	6	8	6	2	88
		(行%)	(9.1)	(5.7)	(14.8)	(17.0)	(26.1)	(6.8)	(9.1)	(6.8)	(2.3)	(100.0)
		(列%)	(13.6)	(9.8)	(21.0)	(28.3)	(33.3)	(35.3)	(38.1)	(66.7)	(100.0)	(25.4)
	合計	n	59	51	62	53	69	17	21	9	2	346
		(行%)	(17.1)	(14.7)	(17.9)	(15.3)	(19.9)	(4.9)	(6.1)	(2.6)	(0.6)	(100.0)
		(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

自尊感情は10～22点を低値群, 23～26点を中値群, 27～40点を高値群とした

容姿満足度は1～3点を不満群, 4～6点を普通群, 7～10点を満足群とした

a: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にてp値を調整) vs不満群; 体型普通群・体型満足群は体型不満群と比較し自尊感情高値群の該当率が有意に高い。

b: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にてp値を調整) vs普通群; 体型不満群は体型普通群と比較し自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

c: $p < 0.05$, χ^2 検定 (bonferroniの調整にてp値を調整) vs満足群; 体型不満群は体型満足群と比較し自尊感情低値群の該当率が有意に高い。

付表4. 自尊感情得点とBMIの関連 (全体)

		BMI					合計	
		やせ群	普通群			肥満群		
		やせている群	少しやせている群	ちょうどいい群	少し太っている群	太っている群		
自尊感情得点	低値群	n	27	55	40	5	16	143
		(行%)	(18.9)	(38.5)	(28.0)	(3.5)	(11.2)	(100.0)
		(列%)	(41.5)	(46.6)	(0.4)	(29.4)	(44.4)	(41.2)
	中値群	n	26	33	39	6	12	116
		(行%)	(22.4)	(28.4)	(33.6)	(5.2)	(10.3)	(100.0)
		(列%)	(40.0)	(28.0)	(35.1)	(35.3)	(33.3)	(33.4)
	高値群	n	12	30	32	6	8	88
		(行%)	(13.6)	(34.1)	(36.4)	(6.8)	(9.1)	(100.0)
		(列%)	(18.5)	(25.4)	(28.8)	(35.3)	(22.2)	(25.4)
	合計	n	65	118	111	17	36	347
		(行%)	(18.7)	(34.0)	(32.0)	(4.9)	(10.4)	(100.0)
		(列%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

自尊感情は10～22点を低値群, 23～26点を中値群, 27～40点を高値群とした

BMIは0～18.49をやせている群, 18.5～20.49を少しやせている群, 20.5～23.49をちょうどいい群, 23.5～24.99を少し太っている群, 25.0～36.99を太っている群とした

Relationship Between Self-esteem and Body Image in College Students

Koichi SHIDO¹⁾, Marino SAWAOKA²⁾,
Ryuta YONETA³⁾, Masaha YONETA³⁾

1) Department of Social Work Practice, Social Welfare
Course

2) Undergraduate School of Social Service

3) Graduate School of Nursing and Social Service